

「脳の発達と学習」 コンフェレンス報告

タイトル：Brain Development & Learning

時：2010年7月 場所：カナダ（バンクーバー）

1. コンフェレンスの概要

① 目的

研究成果を、子供に接している現場のプロに少しでも早く知らせたいという学者たちの熱意で実現したものでした。日々遭遇する現場の疑問に答えたり、解決策を提示することが、このコンフェレンスの大きな目的でした。乳幼児が教育や治療を受ければ、著しく学習効果が上がる、またはハンディを最小限に食い止めることができることを、多くの研究結果が証明していました。

② 参加者

講演者：心理学、健康医学、精神医学、生物心理学、家庭医学、神経学、脳科学等で活躍する学者 約20名

聴衆者：教育者、スクールカウンセラー、地方自治体の育児関係担当者、言語療法士、ジャーナリスト 約500名

③ 脳科学（上記学問分野において軸となる分野）

脳科学が多くの学問分野の研究者たちに与えた影響は大きく、近年北米では脳の発育が最も活発な乳幼児の健康や教育への関心が高まっています。6歳から7歳頃までに人間の脳はほぼ9割出来上がると言われていますが、生まれてからこの時期までの環境が、子供の将来に多大な影響を与えることが科学的に証明されつつあるからです。

カナダでは州ごとに、各地域の乳幼児の健康及び教育環境に関するデータを共有するネットワーク作り（情報収集と伝達のための組織を設置）が始まっていました。また、アメリカでは各学者たちが政府に対して、乳幼児の教育や成長環境の重要性を訴える動きが活発化していました。

このコンフェレンスでは、自分が最も関心がある教授と食事をしながら、ラウンドテーブルで質疑応答ができるランチセッションがあり、以下の教授たちと脳科学と教育の詳細なやり取りができました。特に幼児の言語習得についてのパトリシアクール博士の話は、日本人の英語習得にとって非常に貴重なものでした。

●パトリシア・クール博士（ワシントン大学教授、アイ・ラボ研究所ディレクター「脳科学と乳幼児の言語習得」）

早期の言語習得とバイリンガル脳の発達における世界的な権威で、クリントン前大統領とブッシュ前大統領さらにビルゲイツにも、乳幼児の学習過程について研究することの重要性を訴えたことでも知られている。主要なTVチャンネルや新聞・雑誌（New York Times, Newsweek, Time）など、マスメディアに登場することも多い。

※アイ・ラボは人間の学習と脳科学の研究リーダーとして知られ、乳幼児の言語習得について東大とも共同研究た。

●ブルース・マッカンドィリス博士（バンダーベルト大学教授）

認知神経学と教育との結びつきを提唱。基礎認識、言語、読書、数学などの教育分野と脳神経との関係を、様々な学術賞を受賞している。

●アース・リバリー博士（サイモンフレーザー大学教授）

特に年少時期の脳の異常の早期発見と診断の重要性を訴えている。

